

2025 年度 一般選抜入試 A 日程 全学部統一
学部学科特色型・英語外部試験利用型（2 月 4 日）

英 語

1

解答

問 1. エ 問 2. イ 問 3. ウ 問 4. ア 問 5. ウ
問 6. エ 問 7. エ 問 8. ア 問 9. オ 問 10. イ
問 11. 3 番目：ウ 5 番目：イ 問 12. ウ 問 13. ア 問 14. エ

..... 全 訳

《自制心とは状況の選択》

- ① 毎年アメリカ人の半分近くが、人生について何かしら変える決意をもって一年を始める。人々は（昨年より）健康で幸せな自分になろうと目標を定める。しかし、こうした決意のほとんどは失敗に終わる。ある研究によると、決意の 10 パーセントも成功に至っていないことがわかった。
- ② なぜそれほど多くの新年の誓いは失敗するのか？
- ③ 最近まで心理学者たちは、自制心、つまり長期の目標を固守し最終的に達成する能力は筋肉のように機能すると信じていた。成功とは目標を達成する十分な意志力をもっているかに関することだった。しかし、新たな研究によると決意の維持は、私たちが自分をどんな状況に置く選択をするかのほうに、より依存すると示唆されている。
- ④ 自制心の筋肉論は、人は自身の行動に抑制を働かせる能力が限られていると主張している。自制心を働かせるとき（たとえば、無理してランニングをしたり、健康な食事を選択することで）自分を疲れさせてしまう。その後このような疲れた状態（心理学者は「自我消耗」と呼ぶ）にいと、誘惑に負ける可能性が高くなる。この隠喩の一環として言えば、自制心を働かせることは、短期的には自分を疲れさせるが、長期的には徐々に自制力を改善しうることになる。
- ⑤ この自制心論は、成功は意志力の強さ（と性格の強さ）によると暗示している。決意を達成するには「強い」（あるいは「強く」なる）必要があ

る。同時に、決意を固守できない人々に対する判断もまた暗示される。「弱い」人はダイエット食品に固執したり、退職に備えて貯蓄したりする可能性が低いことになる。

- ⑥ 何十年もの間、自制心の筋肉論は心理学者たちの間で人気があった。何百という論文が、この理論は健康、社会関係、金融行動などを含む人の決断方法を説明できると主張した。筋肉理論は 2000 年代から 2010 年代を通して大衆科学本にも登場した。
- ⑦ しかし、ここ数年で、研究者たちはこの理論に確信がもてなくなってきた。多数の大規模実験がこの理論に明確な支持を見出せなかったのである。(中略) データを収集する何十もの研究チームと何千人もの被験者を含むこれらの実験で、(少なくとも) 自制心がなくなることの結果は以前の文献が示唆するほど確固たるものではないとわかったのである。
- ⑧ 研究者の中には今でも自制心を筋肉とする考え方を信じている者もいるが、証拠は見かけよりずっと堅固でないことに (少なくとも) 同意する研究者は多くいるだろう。批判的な人たちは、この理論にはまったく確固たる基盤がないと主張する。つまり、新年の誓いを達成することは、いかに意志力が「強い」(または「弱い」) かということではないと主張する。そうではなくて、どんな状況に身を置くかということなのである。
- ⑨ 心理学者たちは、自制心は筋肉であるという考えには興味がなくなってきた一方で、どのようにして状況のもつ特徴によって自制心が形成されるかのほうに関心を抱くようになってきた。
- ⑩ 中には決心を守り通すのを大変困難にする状況もある。今年は(昨年より) スターバックスでお金を使わないようにしている 2 人の人を考えてみよう。通りを隔ててスターバックスの真向かいに住んでいる人のほうが、一番近いスターバックスと 30 分以上離れたところに住んでいる人よりもずっと苦勞することになるだろう。
- ⑪ この 2 人にとって、成功(あるいは失敗)は性格の力や意志力とはほとんどまったく関係がない。そうではなくて、成功とは自分を適切な状況に置くことなのである。(中略) お金を貯めたいですか? それならお金を使いたいと激しく誘惑に駆られる状況を避けることですね。
- ⑫ 決意を守り通す傾向にある人は、彼らが決意を守り通すのが比較的容易な(そして、比較的誘惑に駆られにくい)状況にあるから、守り通すので

ある。

- ⑬ 自制心についての考え方が私たちの行動に大きな影響を及ぼしうる。
- ⑭ 自制心を状況の観点から見ると、決意を守り通す最良の方法は適切な状況を選ぶことであると示唆される。誘惑を（克服するのではなく）避けることに集中しよう。また、決意が失敗に終わったら、それはおそらくあなたの個人的な弱さによるものではないことも示唆される。そうではなくて、間違った状況にいるのにふさわしい人だったのである。そうして、もし決意を守り通すことに成功した幸運な少数派に入ったとしても、自分の背中をポンポンと叩きすぎないで（自分をほめ過ぎないで）ください。そのときの状況こそが大いに称賛に値するのだから。

解説

問1. stick to ～「～にしがみつく」の同意句は、エの persist in。他にも cling to, adhere to などがある。

問2. ア. 第4段第1文 (The muscle theory …) に不一致。自制心は有限である。

イ. 第4段第3文 (Then, when you …) に合致。

ウ. 第4段最終文 (As part of …) に不一致。「すぐに」ではなく「徐々に」である。

エ. 第4段第2文 (When you use …) に不一致。「疲れてしまう」とある。

問3. 下線部(3)の直後の文が具体例で、ここでいう「弱い」とは身体ではなく意志のことなので、正解はウである。

問4. 心理学者を話題にしているので、アの論文だとわかる。

問5. 近年まで心理学者に人気があった筋肉論について述べている前段から、段落を変えて逆接の But で始めている文章だから、人気がなくなった話に移行すると推測できる。less を使って、「前よりも～ない」としているのでウの confident 「確信して」を入れると筋が通る。アの「合理的な」は主語が人間 (researchers) なのでおかしい。イ. 「疑わしい」 エ. 「否定的な」

問6. この文の主語は the evidence 「証拠」で solid は補語である。したがって、「確固とした」という意味になる。エの「根拠の確かな」が同意である。アは solid 「堅い」の反意語で「柔らかい」、イは「危険な」、ウ

は「一方的な」で、いずれも evidence とは結びつかない。

問7. 「名詞 (the idea) + that + 完全文」から、同格を表す名詞節を導く that (いわゆる同格の that) だとわかるので、正解はエである。ただし、エは The thought と that 節が分離しているので、わかりづらい。アは関係代名詞の主格。イは形容詞 (bad) を修飾する副詞。ウは名詞 (man) を修飾する形容詞である。

問8. 文型を考える問題。下線部(7)の文は形式目的語の it を使った SVOC の文型なので、アが正解。イは SVO, ウは SVOO, エは受動態で SVC だが、もとの能動態 (make O do) は SVOC である。

問9. 本問は成句 have a hard time 「苦勞する, 困難な状況である」を比較級にした問題である。オが正解。

問10. have (very) little to do with ~ は「~とほとんど(まったく)関係がない」という意味なので、イが同意である。ア. 「よい関係である」 ウ. 「関係がある」 エ. 「相互に影響を及ぼす」

問11. 完成文は, they are in situations where following a resolution is relatively easy である。situations を先行詞として関係副詞の where につながる。関係副詞に続く文は完全文である。where は他にも case, point などを先行詞にすることができる。

問12. 具体的内容は直後の文 (Focus on avoiding ...) である。ウが正解。

問13. pat O on the back は文字通りには「Oの背中をポンと叩く」だが、ここでは比喩と考えて選択肢を当てはめてみる。成功したのだから、「よくやった」と背中をポンと叩くと推測し、アを選ぶ。ア. 「自分を過度にほめる」 イ. 「自分をおとしめる」 ウ. 「疑惑で満たされる」 エ. 「自分の弱さに集中する」

問14. ア. 第1段最終文 (But most of ...) に不一致。ほとんどは失敗に終わる。

イ. 第6段第1文 (For decades, the ...) に不一致。人気だった。

ウ. 第3段第2文 (Success was about ...) に不一致。筋肉論の批判者ではなく、筋肉論者 (当時の心理学者) の考えである。

エ. 最終段直前の1文 (The way that ...) に合致する。

問1. ウ 問2. ウ 問3. エ 問4. ウ 問5. オ
問6. ア 問7. エ 問8. イ 問9. ア 問10. オ
問11. エ 問12. ア・オ

全訳

《犬の言葉の理解力について》

- ① 犬の飼い主は自分の犬が「お座り」や「待て」などの命令を理解し応えてくれることを知っている。また、犬は自分のお気に入りのものと関係する単語も理解していると、多くの飼い主は信じている。「ボールを持っておいで」と言えば、たいていその通りの結果になる。
- ② しかし科学は、犬やその他の動物があるものの名前を聞いて、本当に頭の中で心象を作り出しているかを判断するのに、困難な道を歩んできた。そのような行動は、人間がもっている、より深い言語の理解力のようなものを暗示することになるだろう。
- ③ ハンガリーでの新たな研究で、犬は「ごろん」のような命令に応えることができるだけでなく、言葉と的確な対象とを結びつけることを学習できるとわかった。これは犬ではまだ証明されていない、「指示理解」といわれる言語との関連である。
- ④ 「対象について語ると、対象は犬にとって外的なものであり、犬は言葉は何かを指し示すということ、つまり、言葉は自分にとって外部のものを表しているということを学習しなければならない」と、マリアンナ＝ボロスは述べた。彼女はこの研究の筆頭共著者である。
- ⑤ 専門家によって相互評価されたこの研究は、『Current Biology』という科学出版物に最近掲載された。この研究には、脳の活動を測定し脳波を記録するために、18匹の犬と、犬の頭に取りつけた電極を使って身体に悪影響がない脳波検査が含まれていた。
- ⑥ この研究に参加した犬の飼い主たちは、「ボール」や「フリスビー」といった飼い犬のおもちゃの名前を吹き込んだ録音音声をかけ、その後ある対象を犬に見せた。研究者は、録音された対象がその対象と一致したときと、また違ったときも犬の脳の活動を測定した。
- ⑦ 「犬が対象を表す言葉の意味を本当に理解しているならば、犬はその対象を見るだろうと予測しました。そして飼い主が違うものを見せたら、脳内に驚きの反応と言われるものがあるだろうと私たちは予測したのです」

とボロスは言った。

- ⑧ 「これがまさに私たちが発見したものでした」と彼女はつけ加えた。犬が言葉と合致するものを見せられたときは、そうでないときと比べて違う脳のパターンをこの研究は発見した。この研究結果は、犬がある対象を表す言葉を聞いたことに基づいて、その対象の心象を作り出したと示唆している。
- ⑨ 同様に、筆頭共著者であるリラ＝マジャリは、他の動物も言語の指示理解をある程度もっていることが示されてきたが、それらの動物は通常そうするように高度な訓練を受けてきた、と言った。
- ⑩ 犬はそのような能力が生まれつきで、特別な訓練も才能も必要としないらしいことをこの研究は発見した、と言った。
- ⑪ この研究は、「指示理解は必ずしも人間に特有のものではないと事実上言っている言語革命」についての考え方を支持している、とマジャリはつけ加えた。
- ⑫ この研究は賞讃を受けている一方で、その研究結果に疑義を唱えている専門家もいる。アリゾナ州立大学のクライヴ＝ウィンはフェイスブックの投稿で、すべての研究は犬たちが刺激に反応していると思うと述べた。ウィンには犬が正確な言葉の意味を理解しているとは信じられないのだ。
- ⑬ 科学者たちは、最初の犬たちが人間に飼われ始めたのは最大で3万年前だと信じている。以来ずっと犬は人間のすぐそばで暮らしてきている。しかしその進化の過程で、犬がものを指し示す言語を理解する能力を得るかどうかはまだ解明されていない。

解説

問1. “Bring me your ball” という命令が that という結果になるのだから、ウが正解である。

問2. when 以下の副詞節は whether 以下の文に従属しているので、その主語を受けての they と考えて、正解をウとする。

問3. like 以下は直前の語句と類似していることを指すので、正解はエである。

問4. 下線部(4)で始まる文は直前の words refer の言い換えである。したがって、ウの words が正解である。

問5. 選択肢はどれも involved の同意語ではないが、オの featured 「～

を特徴としていた」なら、文意が通る。EEG という測定方法を用いたことや、18 匹の犬を対象としたことがこの研究の特徴、注目すべき点だと考えられる。feature はそもそも「S が O を重要な部分として含む」という意味であり、そのように考えると involve に近いことが理解しやすい。「扱う」と日本語で考えると、エの treat を選びたくなるが、treat は「処置」の意味合いが強いので不適切。

問 6. it は the object in the recording を指し、空欄 A には matched 「合致した」の反対語が入ると予測して、アの differed 「違った」を選択する。

問 7. 下線部(6)内の it は an object を指す。したがって、言葉と合致した対象とそうでなかった対象を比較するのだから、下線部の後に補うのは「言葉と合致」しなかった対象ということになる。エが正解。

問 8. 録音に基づいての話だから、イの「聞くこと」が正解である。

問 9. 下線部(7)は前段の some degree of referential understanding of language を指すので、アが正解である。

問10. 空欄 C を含む文では接続詞 While で対比を表しているので、この研究が賞賛を受けている一方で何を表明している専門家もいるのかと考えれば、オの「疑い」が適しているとわかる。ア. 「謝罪」 イ. 「憎悪」 ウ. 「共感」 エ. 「敬意」

問11. 説明は「変化や反応を引き起こすもの（こと）」の意。エが正解。

問12. ア. 第 3 段第 1 文 (A new study …) と合致する。

イ. 第 6 段第 1 文 (Dog owners participating …) に不一致。飼い主は参加している。

ウ. 第 9 段第 1 文 (Lilla Magyari, also …) に不一致。他の動物にも見られる。

エ. 第 12 段最終文 (Wynne does not …) に不一致。信じていない。

オ. 最終段第 1 文 (Scientists believe the …) に合致。up to 30,000 years ago は「最大で 3 万年前」という意味で、「どんなに遡っても 3 万年前、せいぜい 3 万年前」ということになる。

カ. 最終段第 2 文 (The animals have …) に不一致。ever since 「以来ずっと」は「3 万年前以来ずっと」のことである。

キ. 最終段最終文 (But whether dogs …) に不一致。remains unclear

「不明瞭なままである」とある。

3

解答

1—ア 2—イ 3—ア 4—ウ 5—エ 6—ウ
7—ア

解説

1. 前置詞 *above* は「上方に」が基本的意味だが、抽象的には「超越して」の意味になり、本問のように *above doing* で「(～するようなレベルを超えていて) ～するようなことはない」という語法がある。よって、アが正解。

2. 日本語の「どれくらい」は前後関係で何を指すのかわかるのだが、英語では *how* の直後に形容詞か副詞をつけて明確に表さなければならない。本問はイが正解で、答えには *In ten minutes*. 「10分後に」などがくる。
ア. 「(速度が) どれくらい速く」 イ. 「(時間的に) どれくらいすぐに」
ウ. 「どれくらい最近に」 エ. 「(期間が) どれくらいの間」

3. 選択肢はすべて群前置詞と呼ばれる成句。正解はア。ア. 「(利益・目的を表して) ～のために」 イ. 「～の場合には、～に備えて」 ウ. 「～にもかかわらず」 エ. 「～に関係なく」

4. *short notice* 「短い期間での告知, 急な知らせ」から *on such short notice* 「こんなに急な知らせで」となり、ウが正解。

5. *as if* ～「まるで～のように」は仮定法と結びつくことが多い。現在の事実に反する事柄に仮定法過去を用いる。犬は自分の子どもではないので、エが正解。

6. 「どちら側にも」は *on either side of* ～, 「それぞれの側に」は *each side of* ～, 「両側に」は *both sides of* ～ はすべて同じ意味なのでどれを使ってもよいが, *either, each* は単数扱いなので *side*, *both* は複数扱いなので *sides* となるところに注意する。ウが正解である。

7. 最上級 (*the highest*) と同じ意味を, 比較級 (*higher*) や原級 (*as high as*) を使って表すことができる。本問はアを入れて, 直訳すると「世界のどんな他の山もエヴェレスト山より高くない」となり, 「最高峰」と同意となる。

1. 61—イ 62—ア 2. 63—エ 64—ウ
 3. 65—ウ 66—ウ 4. 67—ア 68—エ
 5. 69—ア 70—ウ 6. 71—イ 72—エ 7. 73—ウ 74—エ

 解説

1. 61. delay は他動詞で「遅らせる」なので、人や電車が「遅れる」は受動態にする。
62. make O C の C の部分にアの「時間通りに」を入れる。イ. 「ずっと」 ウ. 「すぐに」 エ. 「ときどき」
2. 63. 過去の事実に反する文は仮定法過去完了にする。「もし～がなかったら」は、エの But for ～ を入れる。他に Without ～, If it had not been for ～, Had it not been for ～ がある。
64. 主節は、would have *done* の形になるので、ウが正解。
3. 65. 「先を見る時間のほうが多い」の more time に対して、「振り返る時間のほうが少ない」ので、ウの less time となる。spend A (時間) *doing* 「～して A を過ごす」
66. 名詞の後にウの to come を置くと、「来るべき～, 将来の～」という意味になる。
4. 67. 「魂に語りかける力」なので、名詞が入る。アが正解である。
68. 「言葉が決してできないであろう方法」 words never could (do) が a way を後置修飾するので、エの関係代名詞 that が正解。
5. 「4分の3」は three fourths か three quarters である。
6. 71. 「絶対勝つ」は「勝つと確信している」ことなので、イを入れて I am sure (that) … とする。
72. エの otherwise には「違ったふうに、その他の方法で」という使い方がある。「違うふうには信じられない」、つまり「勝つ以外には信じられない」となる。
7. 自分で再発行するのではなく、しかるべき人にしてもらうので、使役動詞の have A *do / done* を用いる。A (my student ID) が reissue されると考える。